

2021年度 第4四半期決算報告

地球に提案だ。



挑戦の先に答えはある。

ZEON

2022年4月27日
日本ゼオン株式会社

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

【総括】

- ◆ Q4連結実績は前年同期および前期と比較して増収減益
- ◆ 新型コロナウイルスの感染拡大により、調達に軽微な影響はあるも生産への影響はない

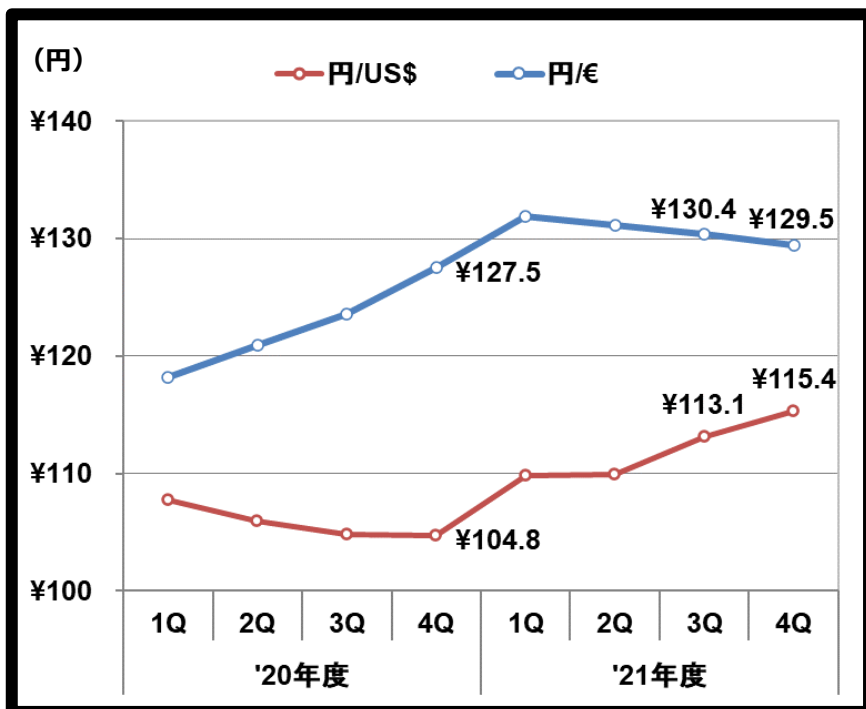
【エラストマー素材の概況】

- ◆ 主原料価格高騰に伴う販売価格改定が進み、売上高はYoY・QoQともに増加するも、海上運賃や修繕関連費用等の増加により営業利益は減少
- ◆ コンテナ不足や船繰り難で、欧米向け中心に出荷遅れ

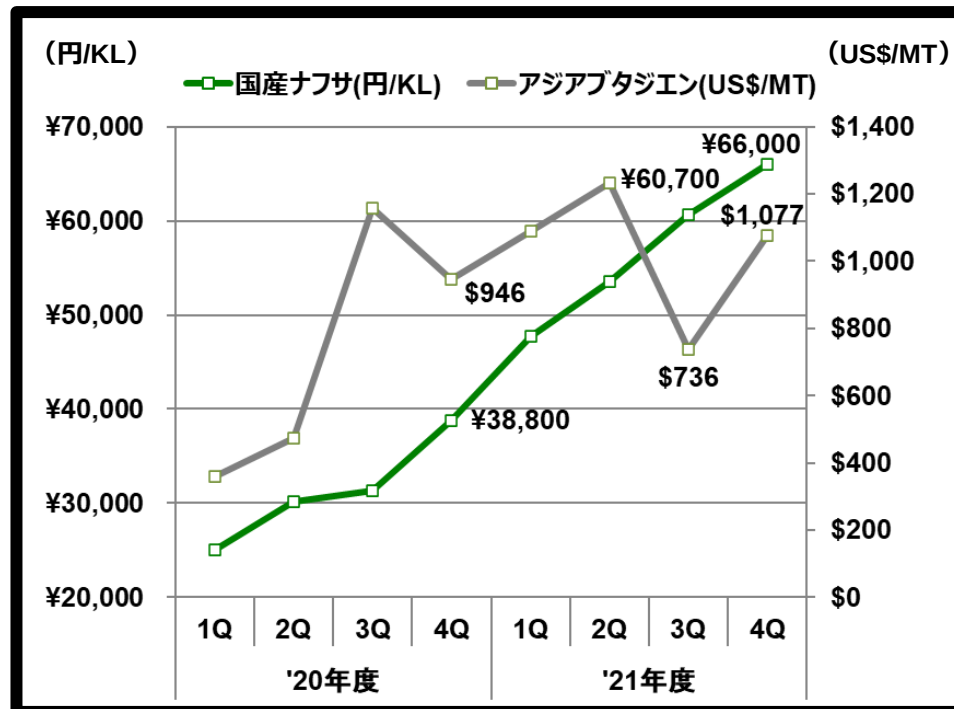
【高機能材料の概況】

- ◆ 売上高はYoY・QoQともに増加、営業利益はYoYでは増加するも、QoQでは海上運賃と新規開発費用等の増加により減少
- ◆ 高機能材料の需要は総じて引き続き堅調

【為替推移】



【主原料推移】



		2020年度 Q4	2021年度 Q3	2021年度 Q4	YoY 変化率	QoQ 変化率
為替	円/US\$	¥104.8	¥113.1	¥115.4	+10%	+2%
	円/€	¥127.5	¥130.4	¥129.5	+2%	△1%
主原料	国産ナフサ/KL	¥38,800	¥60,700	¥66,000	+70%	+9%
	アジアブタジエン/MT	\$946	\$736	\$1,077	+14%	+46%

※国産ナフサ：2020年Q4及び2021年度Q3は確報値、2021年度Q4は当社見込値

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

（単位：億円）

	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期	2020年度 通期	2021年度 通期	対前年 通期比
	2020年度 Q4	2021年度 Q3	2021年度 Q4	YoY 増減	QoQ 増減			
売上高	857	897	930	+73	+33	3,020	3,617	+598
営業利益	123	115	80	△43	△34	334	444	+110
経常利益	157	125	103	△54	△22	387	495	+108
当期純利益	103	90	60	△42	△29	277	334	+57

- 前年同期比 : 売上高 +73億円、営業利益 △43億円
- 前期比 : 売上高 +33億円、営業利益 △34億円
- 通期対前年度比 : 売上高 +598億円、営業利益 +110億円

注記：海外関係会社の2021年10～12月実績がQ4連結決算に反映されています。

2021年度Q4 業績サマリー（セグメント別）

ZEON

（単位：億円）

【売上高】	2020年度 Q4	2021年度 Q3	2021年度 Q4	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	472	490	526	+54	+36
高機能材料	253	262	265	+12	+2
その他の事業、消去等	132	144	139	+7	△6
売上高合計	857	897	930	+73	+33

【営業利益】	2020年度 Q4	2021年度 Q3	2021年度 Q4	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	70	51	27	△43	△24
高機能材料	56	64	60	+3	△4
その他の事業、消去等	△ 3	△ 0	△ 6	△4	△6
営業利益合計	123	115	80	△43	△34

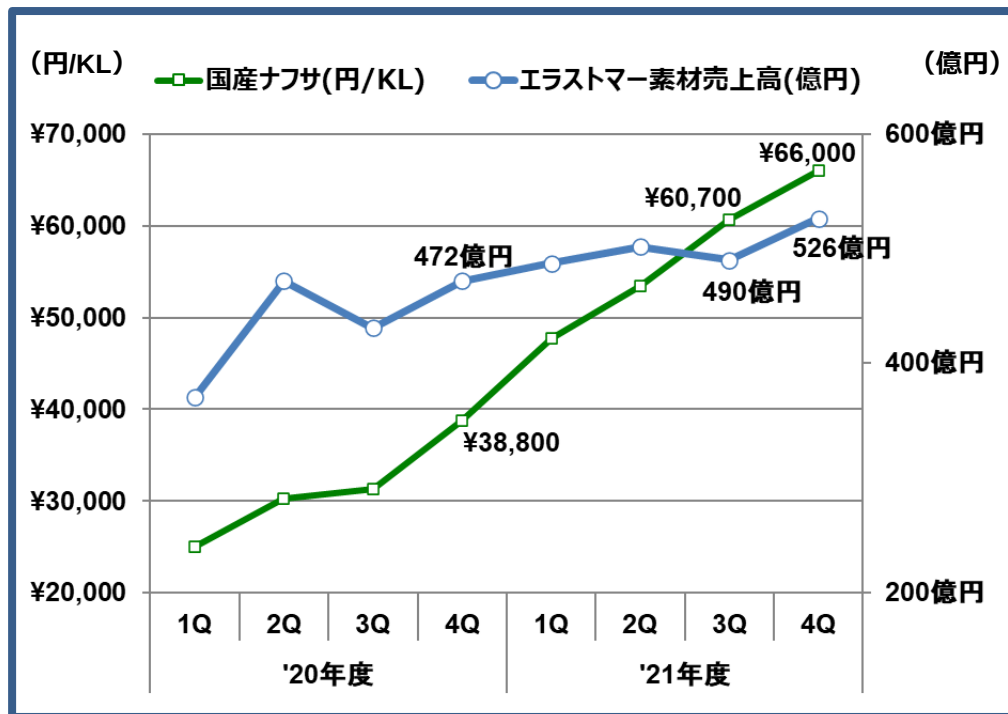
（単位：億円）

【売上高】	2020年度 通期	2021年度 業績予想	2021年度 通期	対前年 同期比	対業績 予想比
エラストマー素材	1,616	1,990	2,006	389	16
高機能材料	955	1,090	1,068	113	△ 22
その他の事業、消去等	449	550	544	95	△ 6
売上高合計	3,020	3,630	3,617	598	△ 13

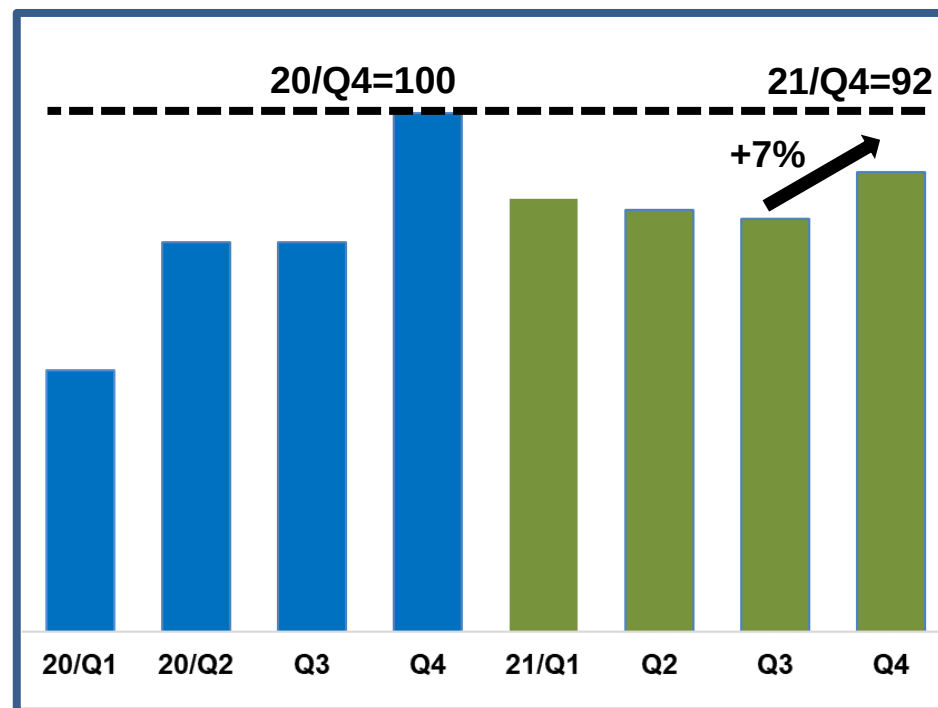
【営業利益】	2020年度 通期	2021年度 業績予想	2021年度 通期	対前年 同期比	対業績 予想比
エラストマー素材	123	193	186	63	△ 7
高機能材料	220	263	264	44	1
その他の事業、消去等	△ 8	△ 1	△ 6	3	△ 5
営業利益合計	334	455	444	110	△ 11

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

【国産ナフサ価格とエラストマー素材売上高推移】



【合成ゴム出荷量推移】



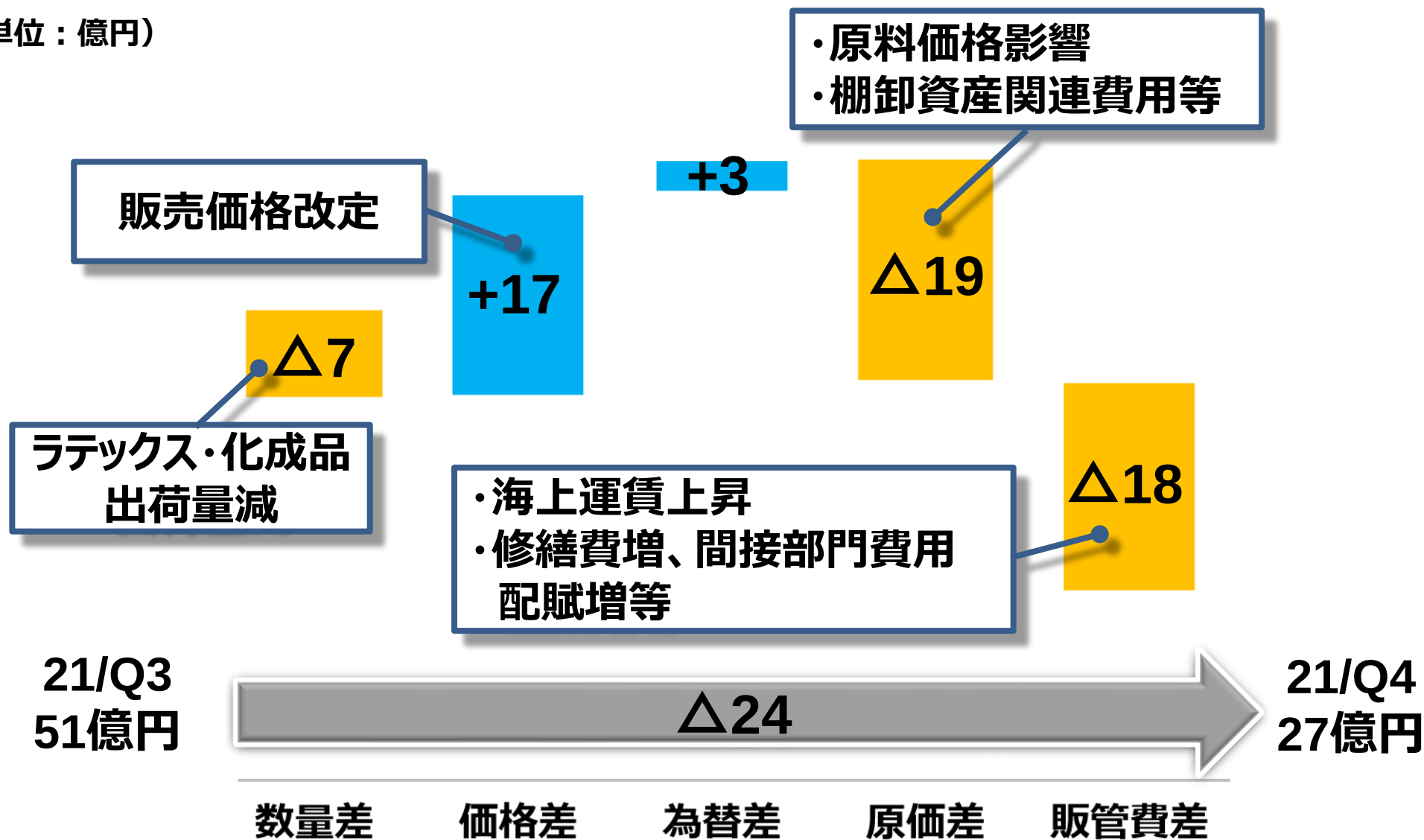
- 国産ナフサ価格上昇に伴い販売価格の改定が進む
- 合成ゴムの需要は堅調、コンテナ不足等の影響でYoYは出荷減となるも、QoQは7%の出荷増

(単位：億円)

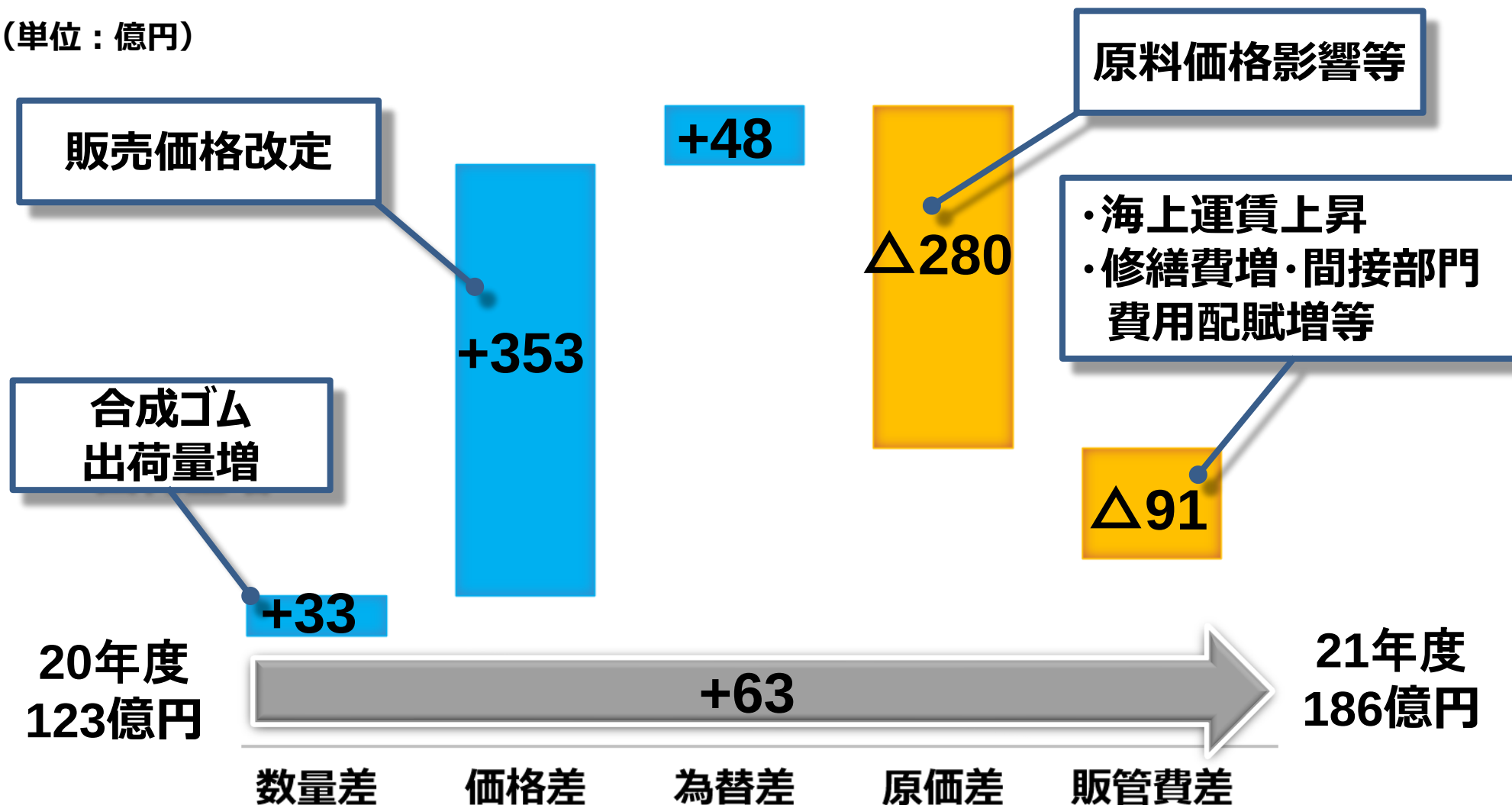
	2020年度 Q4	2021年度 Q3	2021年度 Q4	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
出荷量 (20/Q4=100)	100	86	88	△ 12 pt	△ 12 %	2 pt	2 %
合成ゴム	100	86	92	△ 8 pt	△ 8 %	6 pt	8 %
ラテックス	100	86	83	△ 17 pt	△ 17 %	△ 3 pt	△ 4 %
化成品	100	84	80	△ 20 pt	△ 20 %	△ 5 pt	△ 5 %
売上高	472	490	526	54	11 %	36	7 %
合成ゴム	319	325	354	35	11 %	29	9 %
ラテックス	51	55	46	△ 5	△ 10 %	△ 8	△ 15 %
化成品	88	103	116	28	32 %	13	13 %
その他・消去	14	8	10	△ 4	△ 25 %	3	33 %
営業利益	70	51	27	△ 43	△ 61 %	△ 24	△ 47 %
営業利益率	15%	10%	5%				

- 出荷量 : コンテナ不足、船繰り難等の影響でYoYは減少
QoQは合成ゴム需要堅調でエラストマー全体は増加
- 売上高 : 合成ゴム・化成品価格改定により、YoY・QoQともに増加
- 営業利益 : ラテックス価格鎮静化、海上運賃上昇と修繕・間接部門費用配賦増等の影響を受け、YoY・QoQともに減少

(単位：億円)



(単位：億円)

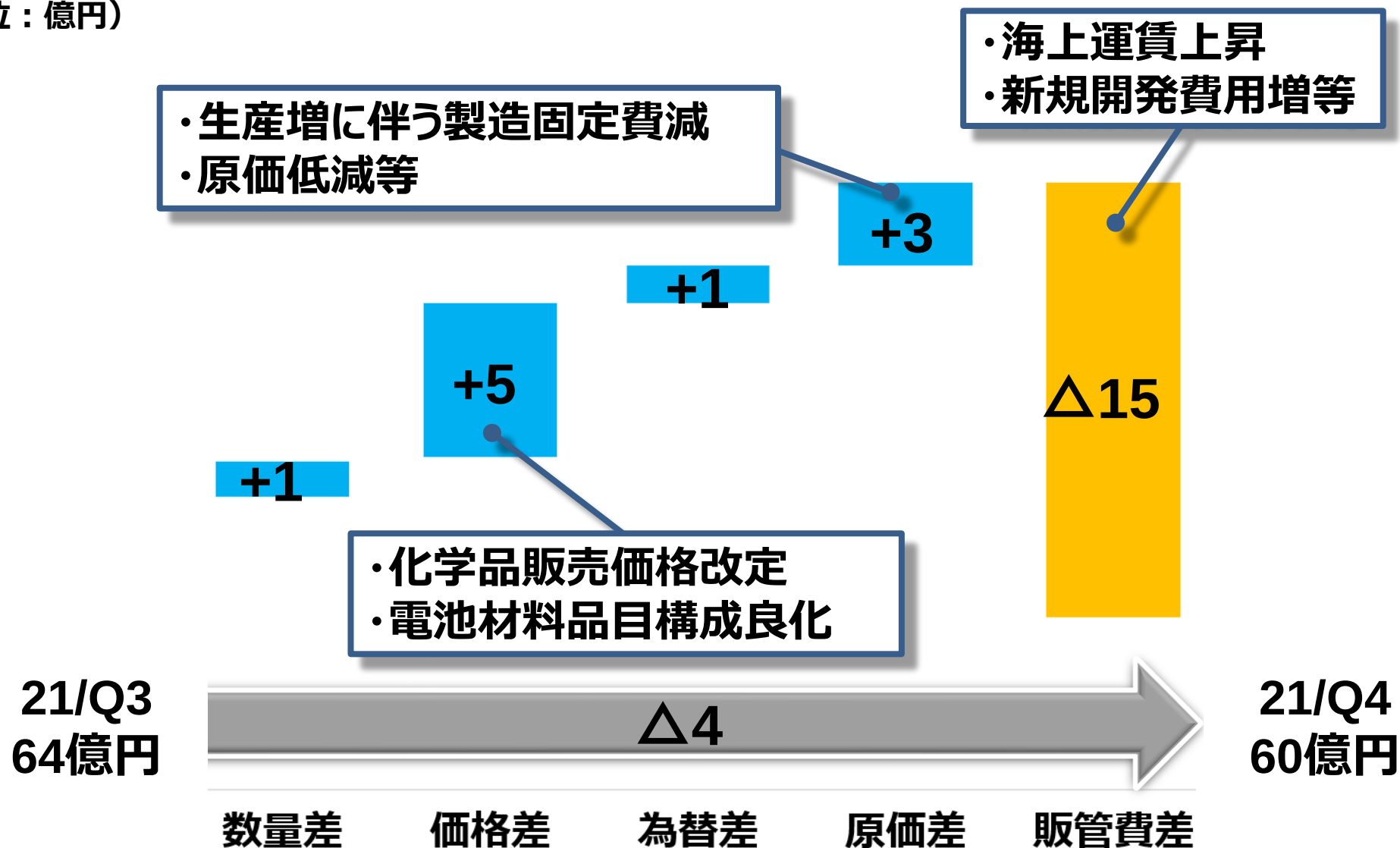


P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

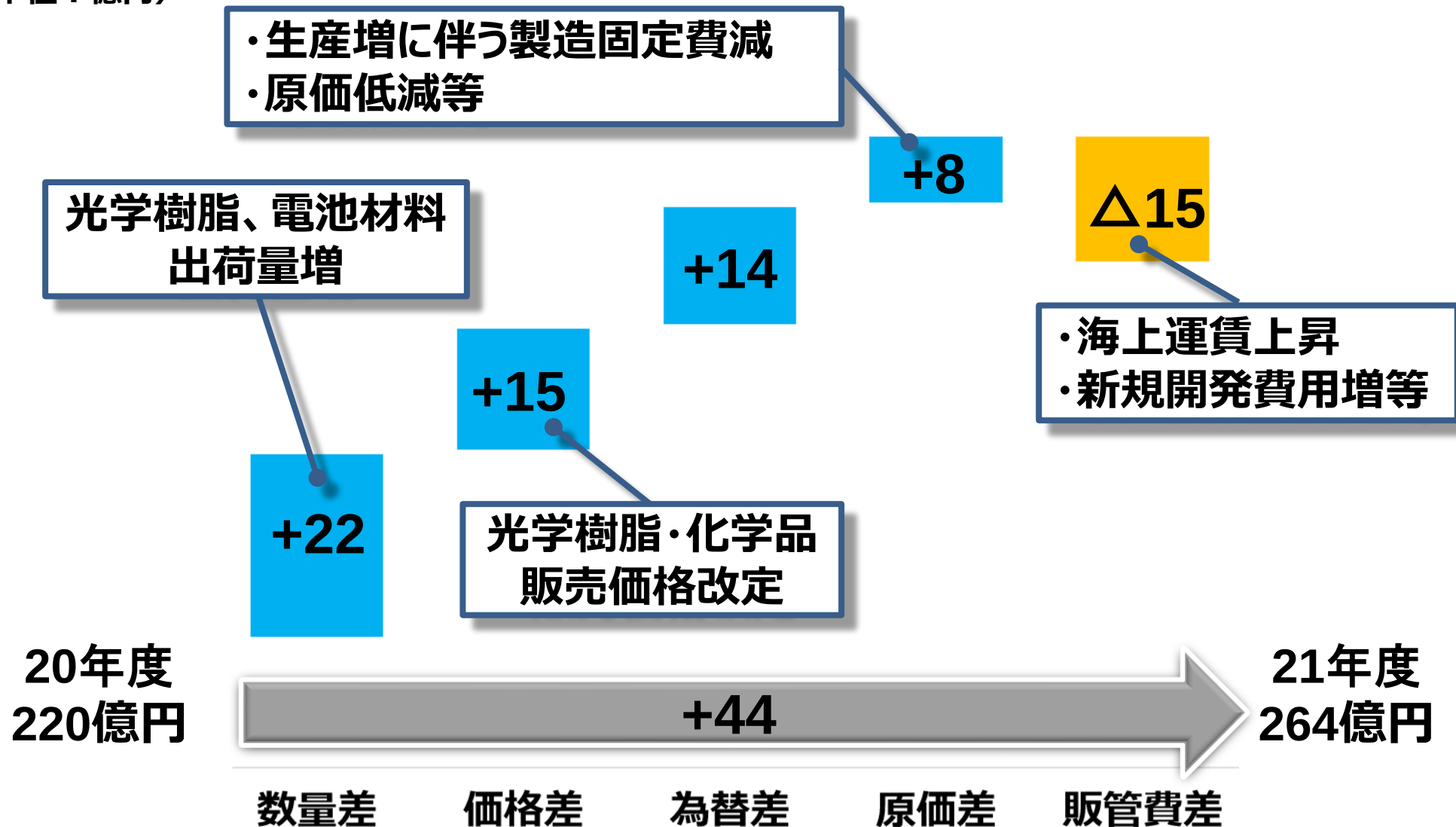
(単位：億円)		2020年度	2021年度	2021年度	YoY	YoY	QoQ	QoQ
		Q4	Q3	Q4	増減	増減率	増減	増減率
売上高		253	262	265	12	5 %	2	1 %
※	高機能樹脂	159	159	151	△ 8	△ 5 %	△ 9	△ 6 %
	高機能ケミカル	81	90	101	19	23 %	11	12 %
	メディカル他	12	13	14	1	11 %	1	6 %
営業利益		56	64	60	3	6 %	△ 4	△ 6 %
営業利益率		22%	24%	23%	※ 高機能樹脂 : 光学樹脂、光学フィルム 高機能ケミカル : 電池材料、化学品、電子材料、トナー			

- 売上高
- 高機能樹脂：QoQは9億円減少、YoYは8億円減少
中小型向け光学フィルム需要端境期、光学樹脂の出荷品目構成差
- 高機能ケミカル：QoQで11億円増加、YoYで19億円増加
電池材料の出荷増、化学品販売価格改定
- 営業利益は新規開発費用等の増加により、QoQで4億円減少

(単位：億円)



(単位：億円)



	YoY	QoQ	YoY累計
EV向け	172%	117%	177%
民生他向け	80%	111%	92%
全体	142%	116%	145%

■ EV向け

中国・欧米向けを中心にEV・PHV市場の拡大に伴い需要は堅調

■ 民生他向け

家電およびモバイル端末向け需要はQoQ出荷増も一服感継続中
産業用途（ESS）はQoQ出荷増、22年度も需要は堅調

	YoY	QoQ	YoY累計
光学用途向け	108%	114%	112%
医療、その他 向け	127%	176%	105%
全体	121%	152%	108%

■ 光学用途向け

半導体不足によりプリンター向け需要鈍化も、
セキュリティカメラ向け需要堅調

■ 医療、その他向け

プレフィルドシリンジ等医療包装容器向け需要堅調
生産・物流要因による前期出荷減分をまとめ出荷

	YoY	QoQ	YoY累計
中小型向け	80%	95%	92%
大型向け	107%	104%	108%
全体	101%	103%	104%

■ 中小型向け

スマホ向け需要端境期・タブレット減産により出荷量減
22年1Qより次期モデル立ち上げに向け回復を見込む

■ 大型向け

中国市場向けを中心に需要は堅調
液晶パネル市場状況変化による当社フィルムへの影響は軽微

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

総資産4,847億円（+358）

【流動資産】 +417億円

- ◆現預金 ▲47億円
- ◆売掛債権 +68億円
- ◆未収入金 +111億円
- ◆棚卸資産 +257億円

流動資産
2,749
(+417)

固定資産
2,097
(△59)

【固定資産】 ▲59億円

- ◆有形固定資産 +7億円
- ◆投資有価証券▲55億円

【流動負債】 +248億円

- ◆買入債務 +171億円
- ◆社債を長期から短期に振替 +100億円

流動負債
1,387
(+248)

固定負債 242 (△126)

純資産
3,218
(+236)

社債を長期から短期に振替▲100

【純資産】 +236億円

- ◆自己資本比率 65.7% (▲0.0)
- ◆D/Eレシオ 0.06 (±0.00)

(単位：億円)

2020年度Q4

561

 $\Delta 83$ $\Delta 302$ 2021年度Q4

331

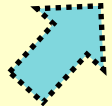
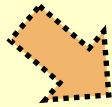
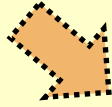
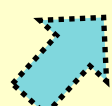
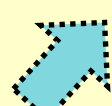
 $\Delta 119$ $\Delta 264$

■ 営業CF
 ■ 投資CF
 ■ 財務CF

(単位：億円)

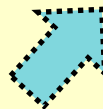
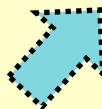
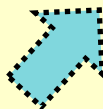
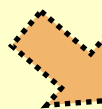
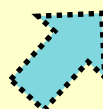
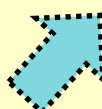
	2020年度	2021年度
営業CF	561	331
投資CF	$\Delta 302$	$\Delta 264$
フリーCF	258	67
財務CF	$\Delta 83$	$\Delta 119$
CF	176	$\Delta 52$

P.2	総括とセグメントの概況
P.3	事業環境（為替・主原料推移）
P.5	業績サマリー（全体）
P.6	業績サマリー（セグメント別）
P.9	エラストマー素材 概況
P.10	エラストマー素材 P/L
P.11	エラストマー素材 営業利益差異
P.14	高機能材料 P/L
P.15	高機能材料 営業利益差異
P.17	高機能ケミカル事業：電池材料の状況
P.18	高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
P.19	高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
P.21	B/S概要
P.22	C/F概要
P.24	2022年度 事業環境
P.26	2022年度 業績予想
P.27	2022年度 配当金予想

エラストマー 素材 (億円)	2022年度		2022年度 想定される事業環境
	売上 予想	営利 予想	
	2,170	160	2021年度に対し、売上高+164 営業利益△26
	合成ゴム	 	主原料価格高騰による販売価格改定 主力工場定期修繕による製造固定費悪化
	ラテックス	 	手袋用ラテックス価格鎮静化
	化成品	 	主原料価格高騰による販売価格改定 2021年度主力工場定期修繕完了で製造固定費良化

※2022年度の動向は、2021年度比

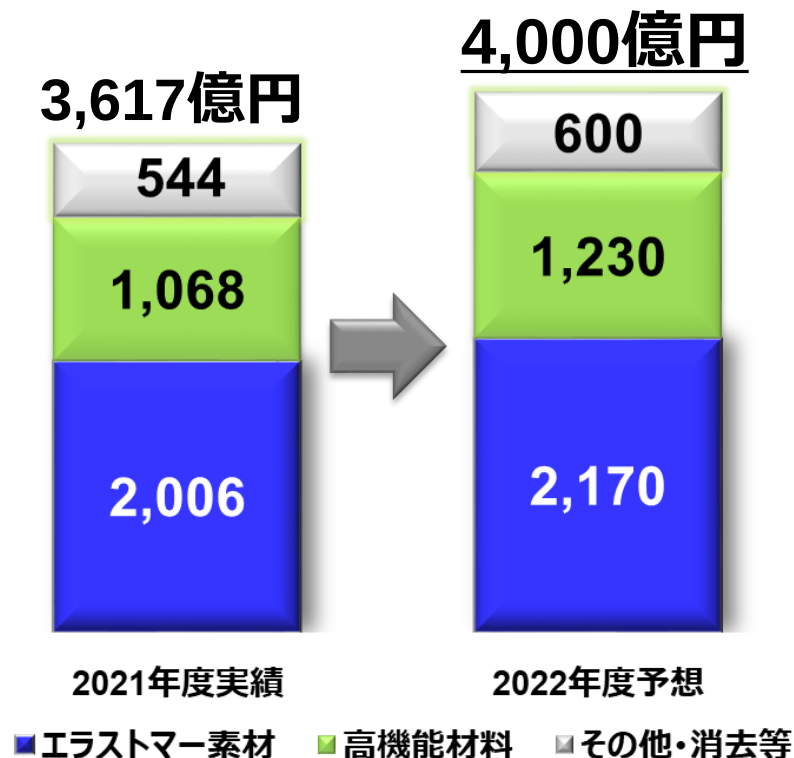
- 2021年度比で主原料価格高騰による販売価格改定により増収も、合成ゴムの主力工場の定期修繕による固定費悪化、および手袋用ラテックスの価格鎮静化の影響で減益を予想

		2022年度	
高機能材料 (億円)	売上 予想	営利 予想	2022年度 想定される事業環境
	1,230	300	2021年度に対し、売上高+162 営業利益+36
			光学・医療その他用途向けいずれも需要堅調
			大型・中小型向けいずれも需要堅調 生産能力増強費用増加（大型新ライン向け労務費等）
			EV市場拡大に伴う需要堅調

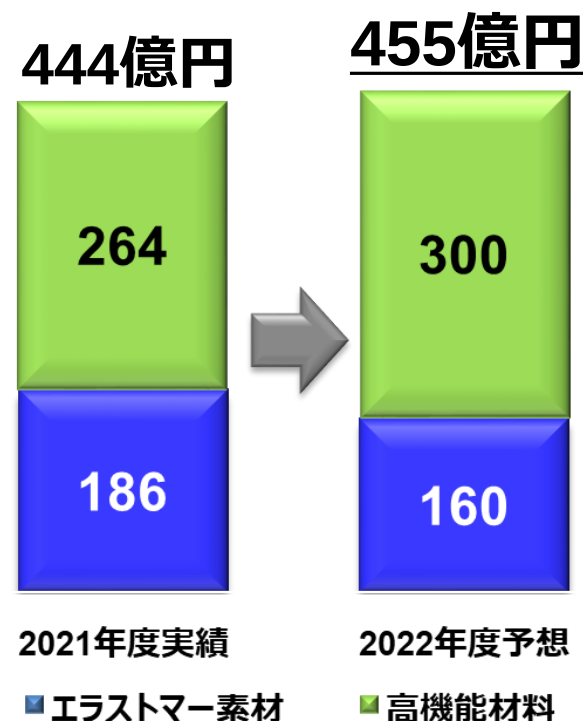
※2022年度の動向は、2021年度比
※影響の大きい事業のみを掲載

■ 2021年度比で需要は堅調であり増収増益を予想

【売上高予想】



【営業利益予想】

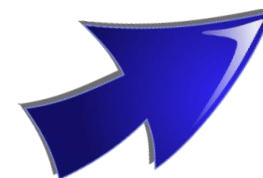
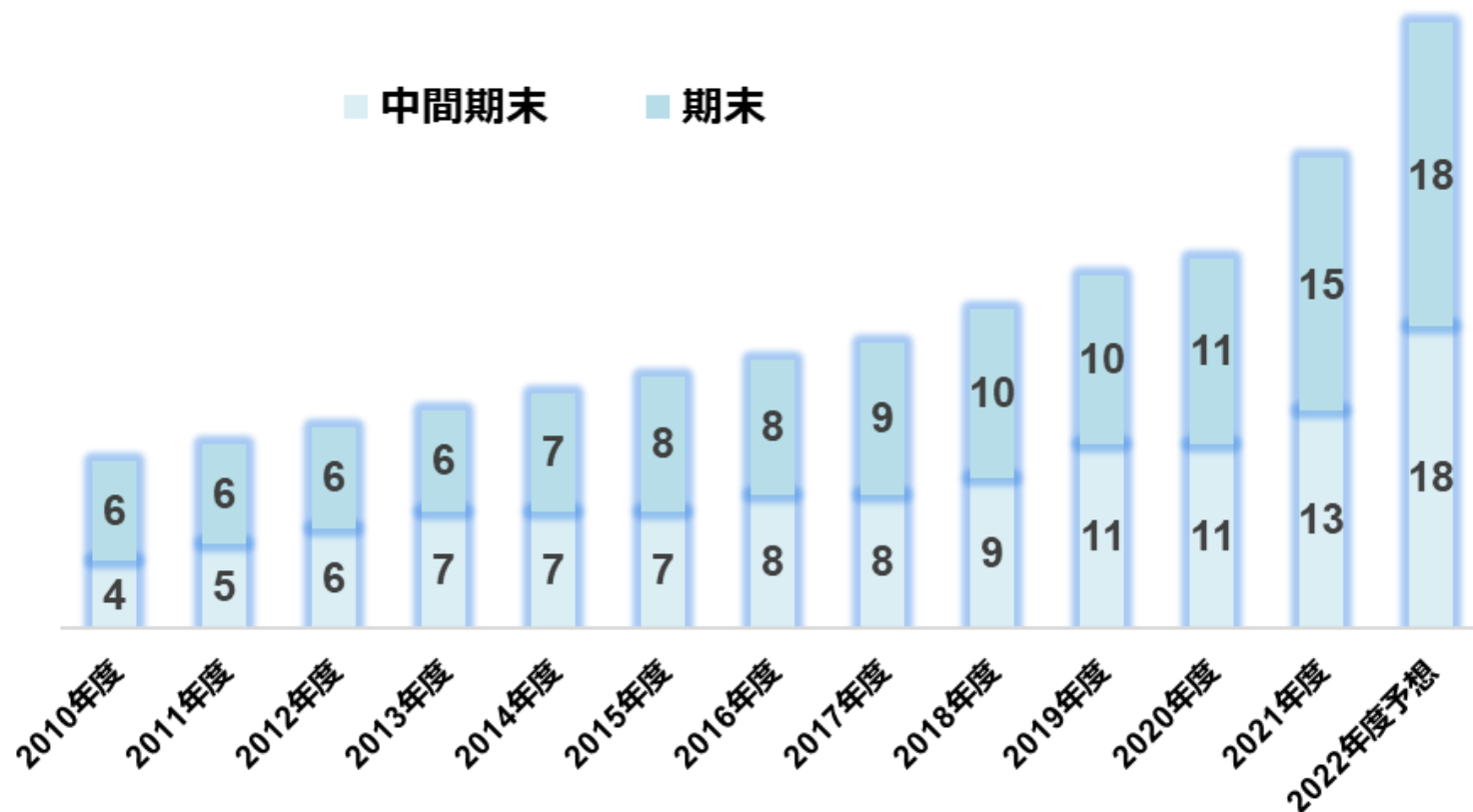


■ 2022年度通期業績予想は売上高4,000億円、営業利益455億円と予想

2022年度前提：

- ・US\$=120円、€=135円、国産ナフサ=¥60,000、アジアブタジエン=US\$1,000
- ・物流状況は2021年度Q4程度
- ・新型コロナウイルス感染症、ロシア・ウクライナ情勢による調達、生産の影響は軽微

【配当金予想、単位：円】



安定的に持続的な
配当政策を継続
(方針に変更なし)

**2022年度の配当金は中間期末18円、期末18円の36円を予想
(対前年度比+8円)**

本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

2022年度 Q1決算発表	2022年7月28日（木）を予定
--------------------------	-------------------------

※上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます

The logo for ZEON, consisting of the word "ZEON" in a bold, blue, sans-serif font.

日本ゼオン株式会社

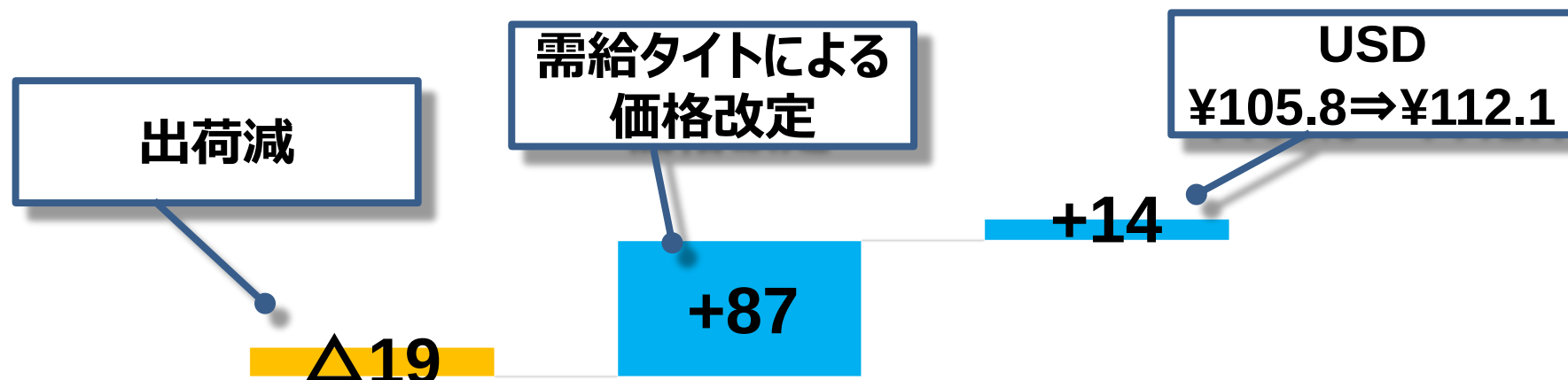
以 上

事業	2021年度 (業績予想比)			差異要因
	出荷	売上 差異	営利 差異	
エラストマー 素材	—	+16	△7	
合成ゴム	→	↗	↘	主原料価格高騰による販売価格改定 棚卸資産関連費用増、間接部門費用負担増
化成品	↘	↗	↘	主原料価格高騰による販売価格改定 間接部門費用負担増
高機能材料	—	△22	+1	
光学樹脂	↘	↘	→	需要堅調も物流遅延、出荷品目の構成変化 生産量増により製造固定費減
光学フィルム	→	→	↘	半導体不足によるタブレット向け出荷回復遅延
化学品	→	↗	↗	主原料価格高騰による販売価格改定

参考：ラテックス 売上高差異（YoY累計）

ZEON

（単位：億円）



	2020年度 Q4	2021年度 Q3	2021年度 Q4	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
単価 (20/4=100)							
ラテックス	100	124	109	9 pt	9 %	△ 15 pt	△ 12 %

2021年度Q4 (2021年度Q3比)				事業トレンド
事業	出荷	売上	営業利益	
合成ゴム				汎用ゴム出荷増、販売価格改定が進む 物流費・修繕費・間接部門費用負担等の増
ラテックス				手袋用ラテックスの市場流通在庫調整継続 販売価格鎮静化、主原料価格・物流費高騰
化成品				eコマース向け需要堅調は継続 販売価格改定が進むが、 間接部門費用負担増

事業	2021年度Q4 (2021年度Q3比)			事業トレンド
	出荷	売上	営業利益	
光学樹脂				医療その他用途中心に需要は堅調 品目構成差で平均単価が悪化 生産量増による製造固定費良化
光学フィルム				スマホ向け中小型フィルム需要端境期 TV用途大型フィルムは堅調
電池材料				EV・民生他向けいずれも好調

用途	市場動向		状況
	2021年度	2022年度	
大型TV			液晶パネル価格下落も当社主力の大型テレビ向けは堅調を維持
スマートフォン			OLED化の進展により21年度並みで推移
タブレット			在宅・教育需要により21年度並みで推移
ノートPC			顧客生産能力増強に伴い市場拡大

※2022年度の市場動向は、2021年度を起点とした当社見立て

アップサイド

物流混乱解消

為替の円安化

コンテナ・船の流動化

円安ドル高

物流コスト減

円安ユーロ高

ダウンサイド

原料状況悪化

半導体不足長期化

ナフサ高騰

新型コロナ再拡大

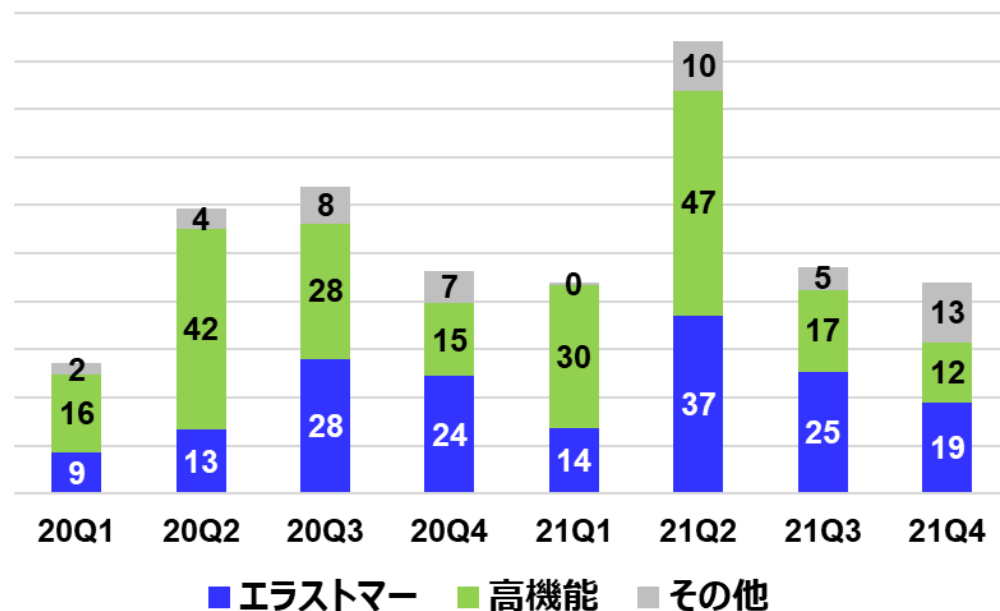
ブタジエン下落

モバイル端末減産

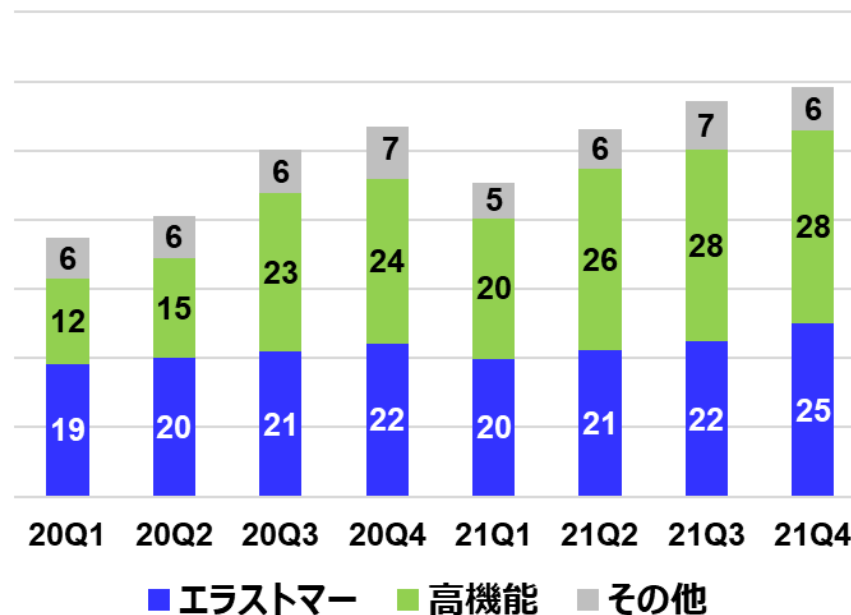
参考：資本的支出、減価償却費の推移

(単位：億円)

【資本的支出】



【減価償却費】



20年度実績
196億円



21年度実績
229億円



22年度予想
380億円

20年度実績
182億円



21年度実績
215億円



22年度予想
215億円